

感動一点の場

『群・大白鳥』
1980年 小川原 脩 画



本作は横に2メートル近くある、大きな作品です。まるで実物大のような、12羽ほどの白鳥の群れが描かれています。さらに奥にもその集団は続いているようで、彼らは群れのごく一部なのかもしれません。長い首を伸ばしたり曲げたりして、優雅に羽根を広げているものもいます。白鳥たちの振る舞いから、旅の途中、いつときの休息地に降り立った直後の、高揚感と安堵感が入り交じった光景のように感じられます。

赤い背景に包まれて、白い鳥たちの姿が際立ちます。一羽一羽の仕草、姿勢も変化に富み、群れは自由な雰囲気醸し出しています。この作品について「白いマッス（塊）の中の流れる線の交錯でありたいと願った。柔軟なものの表現を求め始めたのかも知れない。ここでも『群れ』を」と小川原自身が述べています。1970年代の「個と群れ」の厳しい対比から、1980年代に向かって優しい群れへと移り変わっていくさまが現れています。

お気づきでしょうか、シルエットだけのキタキツネが背後に潜んでいます。平穏を破る兆しのようなものであり、北国の動物たちが繰り広げる物語を予感させます。これは小川原脩ならではの、北国の風景画とも言えるのではないのでしょうか。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

ふるさと探訪

尻別川のアユ

484回

道央圏有数の溪流釣り河川として親しまれる夏の尻別川。かつて尻別川にはアユが豊富に生息し、全国大会が開催されるなどアユ釣りの活気にあふれていました。

アユは海と川を行き来する魚です。秋から冬に卵からふ化した稚魚は、まもなく海に下って冬を越します。翌春、川に遡上するとそれまでの動物食から川底の石についた付着藻類を食べる植物食に食性を変化させ急激に成長、その年の秋に産卵してその生涯を終えます。

北海道にも自然分布しているされるアユですが、増殖事業も盛んに行われてきました。北海道でのアユ増殖の取り組みは古く、1892年（明治25）に千歳孵化場が道南の石崎川産の卵を千歳川に移植したのに始まり、1905年（明治38）に豊平川でも移植、1930年代には朱太川や尻別川、千走川などで人工ふ化放流事業が進められました。尻別川では1950（昭和25）年に漁獲高700貫（2,625キログラム）、1900万尾の放流を行ったとする記録が残っています。

北海道産アユに関する研究は、つい最近までほとんど行われていなかったようですが、北海道水産試験場の調査により北海道産のアユに、本州産のアユにはない独自の形態があることや、成熟過程が異なる場合があることがわかってきています。身近な生き物であっても、まだまだ多くの謎に包まれているのですね。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



アユ（尻別川産：当館蔵）。
餌をはぎ取るのに適した櫛状歯と呼ばれるカミソリ状の歯を備える

展覧会のお知らせ

■第1展示室

しりべしミュージアムロード共同展「^{まる}〇！」

今年の共同展は〇の造形、〇から連想する言葉や数字など、各館さまざまに〇を解釈し、各館5つの展覧会を同時開催します。岩内町の荒井記念美術館と木田金次郎美術館、共和町の西村計雄記念美術館、ニセコ町の有島記念館が大きな〇でつながった、まるでひとつのミュージアム！5館巡ってお楽しみください。

【小川原脩記念美術館『ふるさと・まるごと・風景画』～小川原脩・木田金次郎・西村計雄の作品展示】

会期：開催中～9月24日(日)

■第2展示室

岸本春代展「Plants & Animals いきとしいけるもの」

リアルなオランウータンにゾウ、ライオンの仕草に、たわわに実る果実や枯れ木の質感。圧倒の描写力が生み出す作品世界に潜む、物語の仕掛けを見つけられるでしょうか。圧巻の岸本作品の数々をお楽しみください。

会期：開催中～9月24日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

おとなの手しごと（20）「色あざやかに、折り染め」

和紙を折って畳んで、色あざやかな染料で染めます。花開くような染めの形をお楽しみいただけます。

日時：8月19日(土)14時～16時 会場：当館ロビー（無料）
お相手：沼田絵美（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）
定員：10名 ※中学生以上、親子可

■造形活動ワークショップ

むつ先生と絵あそびしよう「たねをまこう」

日時：8月12日(土)①10時30分～、②13時30分～
会場：ロビー（参加無料） 講師：宮崎むつさん（美術家）
定員：各回6組※要予約（小学生とその家族が対象）
予約受付：電話申込受付中（☎21－4141）

倶知安風土館のお知らせ

■寺子屋ミュージアム

「タンポポからコーヒーを作ってみよう！」

タンポポの根からコーヒーを作ります。

日時：8月11日(金)13時30分～16時30分
集合：倶知安風土館 講師：滝澤クリスティーナ（風土館職員）
定員：10名※要予約 参加費：無料
予約受付：8月6日(日)までに電話申込（☎22－6631）

「作ろう！知ろう！ニセコ連峰③」

石こうでミニチュアのニセコ連峰を作り、地形や自然を学びます。範囲は目国内岳から雷電山の辺りです。

日時：8月19日(土)13時30分～16時30分 場所：倶知安風土館 定員：10名※要予約
講師：古市竜太さん（マウンテンガイド・コヨーテ主宰） 参加費：300円

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円（400円）
高校生 300円（200円）
小中学生 100円（50円）

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円（100円）
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
8月の休館日 毎週火曜日、
21日(月)までは夏休み期間のため美術館小中高生観覧無料

白老町とウポポイ

私にとって白老町は、これまでほとんどご縁のない町でした。しかし数年前、たまたまホロホロ峠の存在を知り、実際通ってみると割とお手軽に行けてしまうことが判明。以来、ドライブがてらちょくちょく遊びに行ってます。穏やかな町中の雰囲気や、虎杖浜の熱めの温泉、なにより海産物ロードのタラコが好物になりまして。

その後、程なく「ウポポイ」がオープン。最近では事前予約も不要になったと聞き、先日、ようやく訪問することができました。

中心施設となる「国立アイヌ民族博物館」は、巨大な建築物でありながら、眼前に広がるポロト湖やチセ（復元家屋）などと見事に調和し、アイヌの世界観を壊すことなく、大変快適で居心地の良い空間をつくり出していました（わが町の「ぬくぬく」と同じ設計会社が携わっています）。魅力をお伝えするには全然紙面が足りないのですが、今まで以上に白老に出かける機会が増えそうです。

館長 福原秀和